

織幡神社

織幡神社は、宗像地域で一番大きな漁港である鐘崎を見下ろす位置にあります。ここに祀られている主神は、武内宿禰命です。武内宿禰は、摂政を務めた神功皇后や五人の天皇に仕えたと言われる、伝説に伝わる政治家です。伝説によると神功皇后は摂政として 201 年から 269 年まで君臨し、武内宿禰と共に鐘崎から朝鮮半島へ船で遠征に出たとされています。

織幡神社に至る階段のふもとには大きな岩があり、神聖なものであることを示す「しめ縄」がかかっています。この岩は、元は沖合に沈んでいました。地域の言い伝えにより、この岩は朝鮮半島からの航海中に失われた古代の鐘だと長い間考えられていました。

織幡神社の階段の頂上からは、漁港と鐘崎の浜を一望することができます。神社の後ろには、大きなカシ、イヌマキ (学名:*Podocarpus macrophyllus*)、サンゴジュ、クスノキ、サカキ (学名:*Cleyera japonica*) など、20 種を超える木から成る亜熱帯の森があります。サカキは、神道の儀式で伝統的に使われてきた植物です。

織幡神社の正面入口の左手には、恵比須を祀った小さな神社があります。恵比須は漁師の守り神です。地域の漁師と海女・海士がこの神社にお参りします。海女・海士とは、素潜りで海底からウニ、アワビ、およびその他の貝や甲殻類を採る人々で、女性の海女が一般的です。鐘崎地域には海女・海士の長い伝統があり、付近にはその記念碑があります。